



四万十町
町内ぶら〜り散策

ぬたのかわ 辻ノ川



先月号で、神有は縦に長い地区で「南部の「神有」下」と北部の「小神有（こかみあり）」に別れている」と書いた。この南北に長い神有の中央部に向かって、東の山間から未だに拓けた地区が辻ノ川である。仁井田小学校に入る所にある国道56号の信号を越え北進すると、すぐに押しボタン式の信号があり、ここを右折してすぐに「辻ノ川橋」を渡る。そこからが辻ノ川。さて、まずは「辻」という文字についてである。ぬた沼田。すなわち泥の多い田という意味である。農業用水に恵まれなかった地区であるが、地質は沼地のようであったことからその名がついたと思われる。この文字について興味深いのは、辞書に、辻の意味と並んで「辻ノ川」という地名に使われる漢字とあることだ。つまり、この文字はこの地区のためにある文字ということである。どうやら「辻」という文字を使う地名は日本中でここだけのようなのである。

辻ノ川という地名が記録されている最も古い記録は戦国期の地検帳で、そこにはまだ「辻」の漢字はなく「ヌタノ川」というカタカナ表記であった。その後「ヌタ」には「シ」さんずい「に」出という文字があてられたという。それが次第に「出」ではなく「土」や「土」となっていく。ただしその時には「シ」さんずい「に」ではなく、点がひとつ減った「シ」に「土」が用いられるようになる。そのようにして、辻の川の地名表記は、現代まで永々と変遷を遂げてきた。そして



ため池は現在改修中



地区の真ん中を走る高知道との立体交差は、ため池が万が一決壊した場合に備えて、空間を大きくとっている

2000年代という近年に入って、当時の地区総代と窪川町役場が協議し、「シ」に「土」がJISになく不便であることや、明治時代には「辻」の字を使っていた時期もあったことなどをもって、2002年1月1日に、地名が「シ」に「土」から「シ」に「土」の「辻の川」に改められたということである。「参考資料」三省堂ワールドワイズ・ウェブ／早稲田大学・笹原宏之教授」

農業用水に恵まれなかったと書いたが、江戸期の大灌漑（かんがい）工事が完成するまでは、現在の仁井田地区一帯がそうであり、各地で水争いが絶えなかった。しかし、辻ノ川では早くから「農業用水の自給」に取り組んでいた。地区の東の奥にある大きなため池がそれである。2017年5月現在、そのため池は、災害対策として堤を改修中で、すべての水が抜かれているが、工事終了とともにまた満々と水が湛えられる予定である。

現在、辻ノ川には15世帯、33人が暮らしている。

町のうごき

(3月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出	
男	8,330	13	男	2	11	43	21
女	9,312	−14	女	6	15	28	33
計	17,642	−1	計	8	26	71	54
世帯数	8,605	18	(4月中の届出)				
窪川地域	12,383人	大正地域	2,521人	十和地域	2,738人		

四万十川の水質状況

	適正值(mg/l)	5月9日
リン酸	≤ 1.0	0.553
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.10
化学的酸素要求量	≤ 10.0	2.695

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部